

# 国際漁業学会 (JIFRS) 短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 〒631-8505 奈良市中町 3327-204 近畿大学農学部内

Tel : 0742-43-6021 Fax : 074243-6021 E-mail: jifrs.kindai@gmail.com

郵便振替番号 : 00100-6-26448 国際漁業研究会

三菱東京UFJ銀行富雄(トミオ)出張所 普通口座 3698979 国際漁業研究会

2017年度第1号

2017年5月22日刊

## 目次

- |                            |         |
|----------------------------|---------|
| 1. 理事あいさつ「国際漁業と国内漁業」       | 森下 丈二   |
| 2. 2017年度JIFRS大会(東京大会)のご案内 | 婁小波・事務局 |
| 3. 学会賞(国内賞)候補者の推薦依頼        | 八木 信行   |
| 4. IIFET2018のお知らせ          | 山下 東子   |

## 1. 国際漁業と国内漁業

森下 丈二 (国際漁業学会理事・東京海洋大学)

当学会は「国際漁業」という名前を冠しています。しかし、改めて「国際漁業」と「国内漁業」の違いを考えてみると、案外その違いは明確ではないのかもしれませんが。かつて水産庁には沿岸課、沖合課、遠洋課が別々にあり、農林水産省の漁業・養殖業生産統計などの解説にあるように、水産庁が定めた漁業種類の区分に基づく沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業を扱っていました。沿岸漁業と沖合漁業の大部分は「国内漁業」と見なされ、遠洋漁業は「国際漁業」という認識が一般的でした。現在の水産庁の組織では、漁業規模の縮小もあり、漁業現業の管理は基本的にはすべて漁業調整課が担当しています。組織面での「国際漁業」と国内漁業」の区別が難しくなりました。

ここ数年でマスコミに取り上げられた漁業問題を見ると、ここでも「国際漁業」と「国内漁業」の区別が難しくなっています。一昨年の秋にはサンマをめぐる「サンマ資源 国際保護へ」、「サンマ争奪三つどもえ」、「日本が漁業管理を主導せよ」といった見出しの記事が多く出ました。各国のサンマ漁業の拡大を受けての記事です。昨年サバについても同様の報道が行われました。両魚種とも日本の食卓に欠かせない大衆魚ですし、サンマやサバを獲る漁業種類も大部分は「国内漁業」に属するものでした。現在では米国やロシアも参加する国際機関である北太平洋漁業委員会(NPFC)がサンマやサバの国際資源評価を行い、関係する漁業の管理措置を設定しています。

資源の悪化と漁獲規制の強化が報じられている太平洋クロマグロについても、引き縄漁業、釣り漁業、定置網漁業といった沿岸漁業が、全体の漁獲量や漁獲尾数のうえで無視しがたい比重を占めています。太平洋クロマグロは中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC) による、国際管理対象魚種です。世界にはマグロ類の国際管理を行う地域漁業管理機関 (RFMO) が五つあり日本はすべてのメンバーですが、日本にとっては WCPFC が日本の沿岸漁業も扱う唯一の機関ということになります。

さらに我々が食べている食用魚介類の約 4 割 (重量ベース) は外国から輸入されており、サケ・マス類、マグロ類、エビ類、カニ類などスーパーで販売される主要人気魚介類の自給率が特に低くなっています。言い換えれば、これらの輸入魚介類も「国際漁業」の管理の影響を受けるわけです。

「国際漁業」であれ「国内漁業」であれ、漁業資源管理の基本原則としては持続可能な利用の達成、資源の枯渇や乱獲の防止などにあるわけですが、やはり、アプローチの仕方や具体的な保存管理措置の手法には時に大きな違いがあり、「国際漁業」の議論や流儀に「国内漁業」の側が戸惑いや抵抗を感じる場面も少なくないようです。さらに、国際管理の対象とはなっていない「国内漁業」に対しても、国際的に適用されている漁業管理手法を取り入れようとする議論もあり、これからますます両者を区別する意味が薄れていくのではないかと考えます。他方では、日本の漁業実態や歴史的発展過程からすれば、国際的漁業管理手法をそのまま移入することに無理があるケースも少なくありません。

国際漁業学会の役割のひとつは、研究を通じて「国際漁業」と「国内漁業」の橋渡しをすることにあると思います。私自身は、水産庁時代から漁業や海洋の国際交渉にかかわってきましたので、何らかの形でこの橋渡しのお手伝いが出来ればと考えています。

## 2. 2017 年度 JIFRS 大会 (東京大会) のご案内

妻 小波 (国際漁業学会理事・東京海洋大学)・事務局

東京海洋大学品川キャンパスで開催予定の 2017 年度 JIFRS 大会は、以下のスケジュールとなっておりますので、会員の皆様方の奮ってのご参加をお待ちしております。

### 1) 開催月日

2017 年 8 月 5 日 (土) ~ 6 日 (日)

### 2) スケジュール (案)

8 月 5 日 10:30~11:30 編集委員会 (会場: 東京海洋大学 8 号館 208 会議室)  
11:30~12:50 理事会等 (会場: 東京海洋大学 8 号館 208 会議室)  
13:00~17:40 シンポジウム (会場: 東京海洋大学白鷹館 2F 多目的教室)  
18:00~20:00 懇親会 (会場: 東京海洋大学大学会館 1 階食堂・生協食堂)  
8 月 6 日 午前: 個別報告 (会場: 東京海洋大学 8 号館 203 教室、9 号館 208 教室)  
(個別報告希望者が多ければ総会後にも追加)  
午後: 総会 (会場: 東京海洋大学 8 号館 203 教室)

### 3) シンポジウム (案)

#### ① テーマ

国際漁業資源管理における管理理論の展開と実践～マグロ、そしてサンマ、サバへ～

#### ② 主旨

漁業資源管理の基本は MSY の達成ですが、実際には、資源量や資源動態の推定に関する科学情報の不確実性、環境変動などの資源動態への影響に加えて、漁獲対象種と海洋生態系の関係を考慮した生態系アプローチの必要性など、シンプルな MSY 理論には限界があることが認識されてきています。また、関係者の間でのこれら不確実性に関する見解の相違から資源管理措置の導入が困難となるという問題も存在します。この状況への対応として、様々な不確実性を前提としたモデルを構築して、限定的な情報からあらかじめ設定されたルールに基づき漁獲可能量などが決定される方式が開発され、近年ではマグロ類に関する地域漁業管理機関などで実施されています。

2017 年度 JIFRS 大会シンポジウムでは、このような漁業資源管理理論をめぐる動きをレビューするとともに、これが、例えば 2015 年に発足した北太平洋漁業委員会(NPFC)でのサンマやサバ資源の管理をめぐる議論にどのような影響を与えるのか考えるきっかけを提供したいと思います。

講演者や演題などの詳細は JIFRS ホームページでお知らせします。

### 4) 個別報告の申し込み

個別報告は 1 報告あたり 25 分 (質疑含む) の予定。個別報告を希望される会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを添えて、6 月 30 日までにメールにて国際漁業学会事務局 (jifrs.kindai@gmail.com) までお申し込みください。また、7 月 15 日までに報告要旨 (40 字×25 行以内) を、7 月 31 日までに報告資料 (当日までに改変可、事前に座長に渡します) を、それぞれメールで事務局まで提出してください。

### 5) 個別報告予定者への連絡事項 (予告)

2017 年 3 月 27 日において開催された編集委員会・理事会の議により、2017 年度から学会誌において、シンポジウム報告および個別報告の報告内容をベースに作成された 10 枚程度までのコンパクトな和文論文を「報告論文」として収録することが提案されました。個別報告を予定している皆様におきましては、ぜひ「報告論文」への投稿をお願いします。なお、報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じとし、1 万円の掲載料を徴収することが併せて提案されていることをご報告します。

### 6) 大会参加費等

大会参加費：一般会員 2,000 円、非会員 3,000 円 (ただし、漁業関係者・学生は無料)

懇親会費：一般会員・非会員 5,000 円、学生会員 3,000 円

※懇親会へ参加される方は、7 月 15 日までにメールにて国際漁業学会事務局 (jifrs.kindai@gmail.com) までお申し込みください。

※報告要旨集等は配布しませんので、要旨等は各自で事前にホームページ (<http://jifrs.info>) からダウンロードをお願いします。(7月20日頃に掲載します)

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

### 3. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼

八木 信行（国際漁業学会学会賞選考委員長・東京大学）

2017年度の学会賞候補者の選考を開始します。選考要領は下記の通りです。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。賞の種類は以下の3種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員（個人）。過去1年間（2016年1月～2017年4月）の業績が対象です。

<奨励賞>おおむね40歳以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員（個人）。本学会誌第15巻掲載論文（会誌としては未刊行（近刊）ですが、on line ジャーナルの第15巻に掲載されている和文・英文の計3件）が対象となります。

募集期間：2017年6月30日（金）締め切り

推薦方法：推薦する賞のジャンルとその理由（形式自由）を、JIFRS 会長（多田稔 [tadacom@nifty.com](mailto:tadacom@nifty.com)）宛てに、Eメールにて送付してください。

選考方法：会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2017年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。

### 4. IIFET2018のお知らせ

山下 東子（国際漁業学会学 IIFET 担当委員長・大東文化大学）

International Institute of Fisheries Economics and Trade (IIFET：日本では通称「国際漁業経済学会」) の2018年大会が2018年7月16～20日に米国シアトルにて開催される予定です。会員の皆様のご参加をお願いします。なお、今回も開発途上国からの報告者を対象とする JIFRS Yamamoto Prize を継続します。